



「見たり、聞いたり、探ったり」No.308

通算 No.459

青木行雄

大阪・関西万博、閉幕。

(期間2025年4月13日～10月13日、184日間)

「そして夢の跡を見る？」

大阪・関西万博が、約半年の会期を終えて10月13日(184日間)で閉幕した。

大阪湾の人口島「夢洲」の一角を会場とし、防災面や暑さへの対策が懸念された中での開催だった。私たちが利用した、会場につながる地下鉄中央線が、一時不通となり、大勢の人が島内で一夜を明かすなどトラブルもあったが、人命に直結するような大きな事件事故は起こらず、一般来場者はなんと25,578,986人、単純に割ると日本人の5人に1人が行った事に計算上ではなる。

ニュース等を見ると1,160億円と見込んだ運営費で、チケット販売が増えて、2百数十億円の「黒字」になりそうだと言っていた。すばらしい事である。だが、開幕前に2度増額された会場建設費の2,350億円は、国と大阪府、市が経済界とともに3分の1ずつ負担したとの事である。

なんと言っても注目された目玉は「多様でありながら、ひとつ」というメッセージと共に、あの大木造建築の「大屋根リング」。一周2,025メートルもあり、高さ20メートル、巾30メートルもある大建物。

私達木材業界人としてもほこらしく思うが、あれだけの規模であれだけの木造建築、面積6.1万平方メートルはギネスに登録されたし、2度と見ることは出来ないと思われる程大規模の大建築物であった。

各パビリオンの高さは大屋根リングより特別高い建物はなく、リングの上からは遙か彼方の人波が望遠鏡を使って見ると、リング内の建物と共に見え、東側から西側に太陽が沈む景観は、リング上と共に2度と見る事の出来ない大パノラマであった。



令和7年5月7日に入場時の会場での風景
東口を入場するとまずこの「ミヤクミヤク」が迎えてくれた



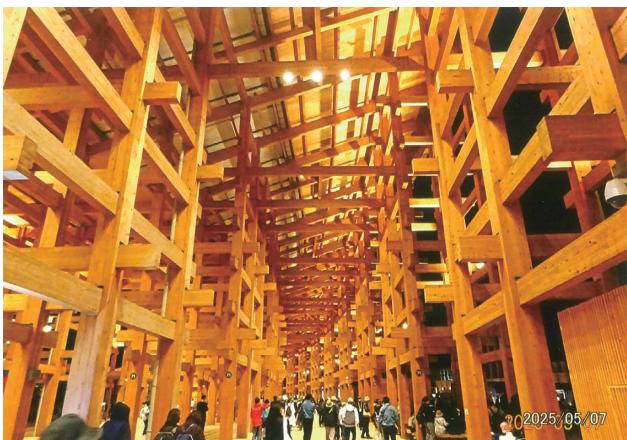
会場で仲間達と
(5月19日)この日は、12万人の入場者



会場風景。右側がポルトガルのパビリオン（7月6日）
遠景に大屋根リングが見える。



中央がフランス館。中央右がアメリカ館。その右がフィリピン館でした。5月はまだ混んでいない。（5月7日）



この大屋根リングは見事である。巾30メートル、高さ20メートル。この建物が2 kmもある。すごい



大屋根リングの上に行くエスカレーター。
夕方の風景は又見ごたえがあった。

私が行った5月は平日せいぜい10万人ぐらいで、日、祭日は12万人ぐらいと聞いたが、話をくわしく聞くと従業員や関係者も含まれていたようである。それが7月に行った時は平日が12～13万人ぐらいで、日、祭日は15～16万人ぐらいと増加、かなりの混雑が始まっていた。

そして最終盤に入る9月以降は連日、20万人超が入場し、累計来場者数は2550万人近くになりそうだと言われた。最終の2ヶ月間は大人気となり、かなりの人がおしかけたようである。

そして、ニュースや新聞などで閉会式の様子を記してみると、

閉会式は、会場内のEXPOホール「シャインハット」で開かれ、万博名誉総裁の秋篠宮さまと同妃紀子さまが出席された外、石破前首相や各国の代表ら約1200人が参加したという。大阪府の吉村洋文知事は「6ヶ月間、世界が一つになった。みんなの支えがあり、多数の参加をいただき、万博をやり遂げることができた」と感謝を述べられた。そして、ボランティアや警備員、医療従事者や関係者に「ありがとう、ありがとう」と繰り返し述べ、責任者の一人としての感動がつたわった。

夕方、参加国・地域の旗を掲げて練り歩く「フラッグパレード」が行われ、午後5時半頃には、東口入場前広場に掲揚されていた参加国の旗が一斉に降ろされ、約350人のボーイスカウトが旗をたたみ終えると拍手が起こったと言う。目に浮かぶようである。



フランス館の前に並ぶ入場者達。5月6日は予約なし30分ぐらいで入場出来た。(5月19日(写真))



会場風景。右に木組のアイルランドパビリオンが見える。(5月19日)ここから約600m先の大屋根リング上の人達を望遠鏡で見ると実に楽しかった。



閉幕後の、11月8日。夢洲駅前、ほとんど人気がない。



地下鉄ホールの風景。まだ映像は流れていたが人は少ない。ここを何万人かが通過した場所である。

夜はフィナーレを飾る約1200発の花火が打ち上げられ、普段の約3倍となる3000機のドローンが「THANK YOU -」の文字を浮かび上がらせた。そして退場ゲートではボランティアが並んで来場者を見送ったようだ。会場の雰囲気を思い出しながら自分がその場にいたような気さえおぼえた。

次回の大型万博は5年後の2030年にサウジアラビアの首都リヤドで開催されるようである。

そして閉幕してから約1ヶ月後の11月8日、機会を利用して、万博会場がどんな様子かと気になって現地をたずねて見た。

大阪地下鉄中央線にのり「夢洲」に向ったが1駅手前の「コスモスクエア」にておろされた。もちろん何本かに1本夢洲まで行く列車があり、乗りかえた。まだ、夢洲下車ホームから東ゲートの手前まではそのまま、ゲートの入口前から囲いが出来て下方内部は見ることは出来なかった。夢洲から地上に出て右側の先に工事関係者の出入口ゲートがあって、入場証明証がなければ入場は出来ないが、写真を撮る為に少々入れさせてもらい写す事が出来た。

工事関係者は24時間出入りがあり、ゲートは24時間開いているようだ。もちろん一般の人は中には出入りは出来ないが、平日は2~300人ぐらいの人が見物に来るようで土曜日は少かった。後半、関心度がいかに高かったかがうかがえる。こんな人もいた。開催中は1度も来られなかつたが今日見に来まし



地下鉄よりの改札口。1日何万人かが出入りした。



地下鉄より、地上に上がるメイン出入口。何か夢の跡という感じがする。



地下鉄より出て入場口へ向う広場の建物。ここから行列で一パイだった。



上部の大屋根リングが見えた。入口あたりはまだ、見えなかったが1ヶ月で建物の約半分はこわされているようである。

たと。比較的高齢者が多いのには驚いた。

2027年「国際園芸博覧会」が開催された。場所は横浜市の郊外部（旭区・瀬谷区）で2015年に米軍から返還された242ヘクタールの広大な土地の1部100ヘクタールが博覧会区域につかわれると言う。

会期は2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで。

その花博に大阪万博に使われた「大屋根リング」は木材の1部が木材木組の塔として建設されるとニュースで発表された。

このように大阪・万博は無事に終り、長い万博の歴史に2回目の日本の足跡を刻んで終了した。

後半に行かれた人の話ではほとんど見ることは出来なかつたと聞く。

これ程後半盛り上った内容を考えて見るとやっぱり、木造の「大屋根リング」の規模と木造建築のすばらしさが理由と考えられる。

その世界的建築家、「大屋根リング」を設計し、会場デザインプロデューサーの藤本壯介氏に乾杯。